

04

-北部-

うちだ しんたろう
内田 真太郎LIVE-FISHER株式会社 代表取締役
Labuフロンティア協会 事務局

| 応募のきっかけは？

父の体調が悪くなり、実家近くに帰ることを考えていました。しかし、田舎では転職先の選択肢は少なく、起業しかないと考えていたところ、2016年春にリクナビNEXTの求人内容を見て、協力隊に応募しました。

| 隊員時代の思い出を教えてください

着任前は、計画性の乏しいお金の使い方、週末になったら飲みに行き、必要のないものまで買ってしまう。預貯金もあっただけ使っていました。着任後は収入減となりましたが、そのことで逆に生活の改善につながりました。

卒業後を見据え、協力隊の勤務以外でもアルバイトをして創業資金に充てました。任期中は自分との闘いでしたが、地域の方々などに支えられ感謝しています。

| 困難な場面に遭遇したとき、どう乗り越えましたか？

法人として起業し、法人税を納めることで地域貢献につなげ、地域に雇用を生みたいという目的があったので、目的を見失わず、中長期・多角的な目線と計画による軌道修正を繰り返しました。

| 活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

1年目の任期中から起業に向けて準備し、各銀行へ事業計画を提出したので、その都度、銀行担当者には大変お世話になりました。

また、萩市ジオパーク推進課をはじめ、紫福支所、福栄・川上総合事務所の協力もありました。協会を設立する際には、地域内事業者や外郭団体の1社1社を訪問し、企画書を持参して協力を求めましたが、市職員にもその都度同行していただきました。

| 現在、そしてこれからについて

子どもの頃からの釣り好きと、社会人経験を活かし、釣り竿の製造から販売まで一に行うことを目的に法人を設立しました。流行りすたりではない、末長く使いたいと思ってもらえるモノを製造したいと考えています。仕事を生み出すことで、雇用を生み、定住者が増えていく環境をつくっていきたいです。

| 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

10年後、20年後の自分をイメージし、ひとつひとつの物事を明確にすると、自然に優先順位や取り組むべき内容が鮮明になり、行動につながると思います。そして、まずは自らが率先して取り組む姿勢が大切です。

Labuフロンティア協会
ポスター▶うちだ しんたろう
内田 真太郎さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 萩市
| 活動期間 | 2016年9月～2019年8月
| 活動内容 | 「萩ジオパーク構想」の取組に関する業務

▶ 現在の仕事

LIVE-FISHER株式会社 代表取締役、
Labuフロンティア協会 事務局

| LIVE-FISHERホームページ |
<https://www.live-fisher.com/company/>

| Labuフロンティア協会ホームページ |
<https://labu-frontier.jimdofree.com/>



▲ 会社「使命」



内田さんのあゆみ

2016年頃 ○ 山口県への移住
を検討し始める

2016.09 ○ 協力隊着任

2016.10 ○ 「バス釣り大会」
の開催開始山の口ダム5回、
阿武湖1回実施2018.07 ○ 独自設計の
釣竿開発2019.04 ○ 「Labuフロンティア
協会」設立2019.06 ○ 阿武湖の活用と保全
を行う萩市川上の
地域団体2019.08 ○ 「LIVE-FISHER
株式会社」設立

協力隊卒業